

「食育に関する意識調査」の結果について

1 調査目的

食育に関する国民の意識や国民運動への関心等を把握し、今後の食育推進施策の検討のための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査対象 全国20歳以上の者：3,000人
有効回収数：1,862人(62.1%)
抽出方法：層化2段無作為抽出法

3 調査期間 平成21年2月26日～3月8日

4 調査方法 調査員による個別面接聴取法

5 前回調査 平成20年3月に実施

6 性・年齢別回収結果

性・年齢	標本数	回収数	回収率	性・年齢	標本数	回収数	回収率		
			%				%		
男	20～29歳	176	66	37.5	女	20～29歳	168	82	48.8
	30～39歳	241	105	43.6		30～39歳	273	170	62.3
	40～49歳	247	141	57.1		40～49歳	234	165	70.5
性	50～59歳	269	149	55.4	性	50～59歳	264	186	70.5
	60～69歳	307	211	68.7		60～69歳	325	244	75.1
	70歳以上	211	153	72.5		70歳以上	285	190	66.7
計		1,451	825	56.9	計		1,549	1,037	66.9

<お願い>

上記調査結果の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを下記あてに御送付ください。

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付食育企画第2担当

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1

TEL 03-3581-1189

FAX 03-3581-1057

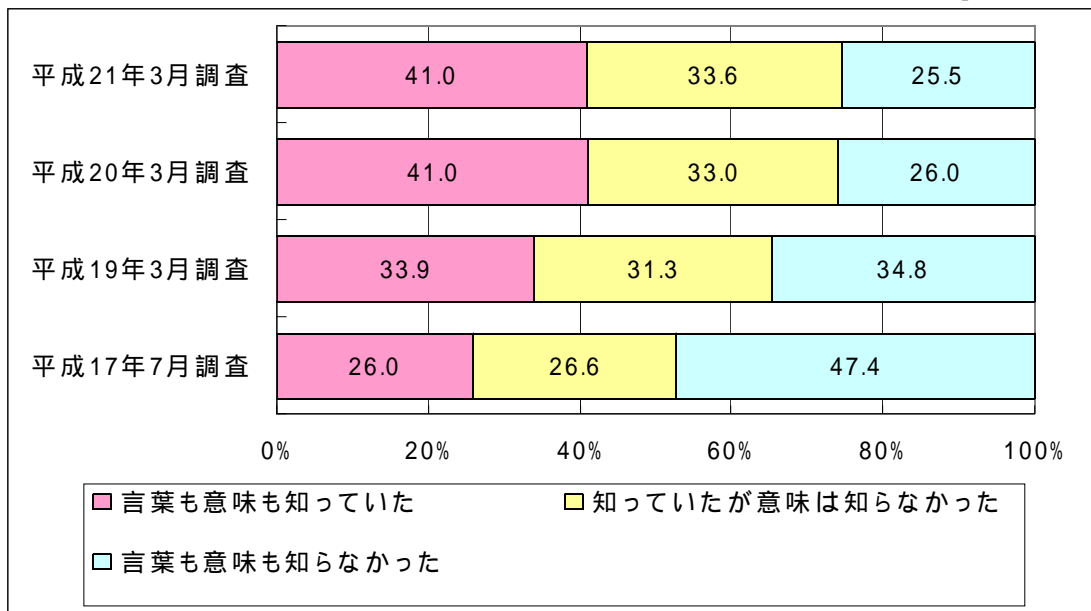
「食育に関する意識調査（平成21年3月実施）」の概要

1 食育に関する意識等について

(1) 食育の周知度

食育の言葉を知っていた人の割合は7割で、前回調査とほぼ同じ。

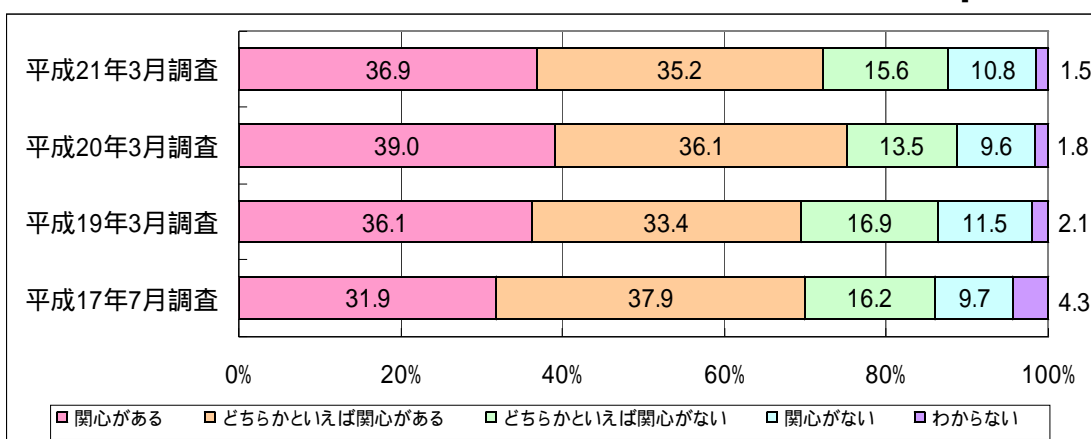
[本文P 4]



(2) 食育の関心度

食育に関心がある人の割合は7割を超えているが、前回調査から2.9ポイント減少。

[本文P 6]



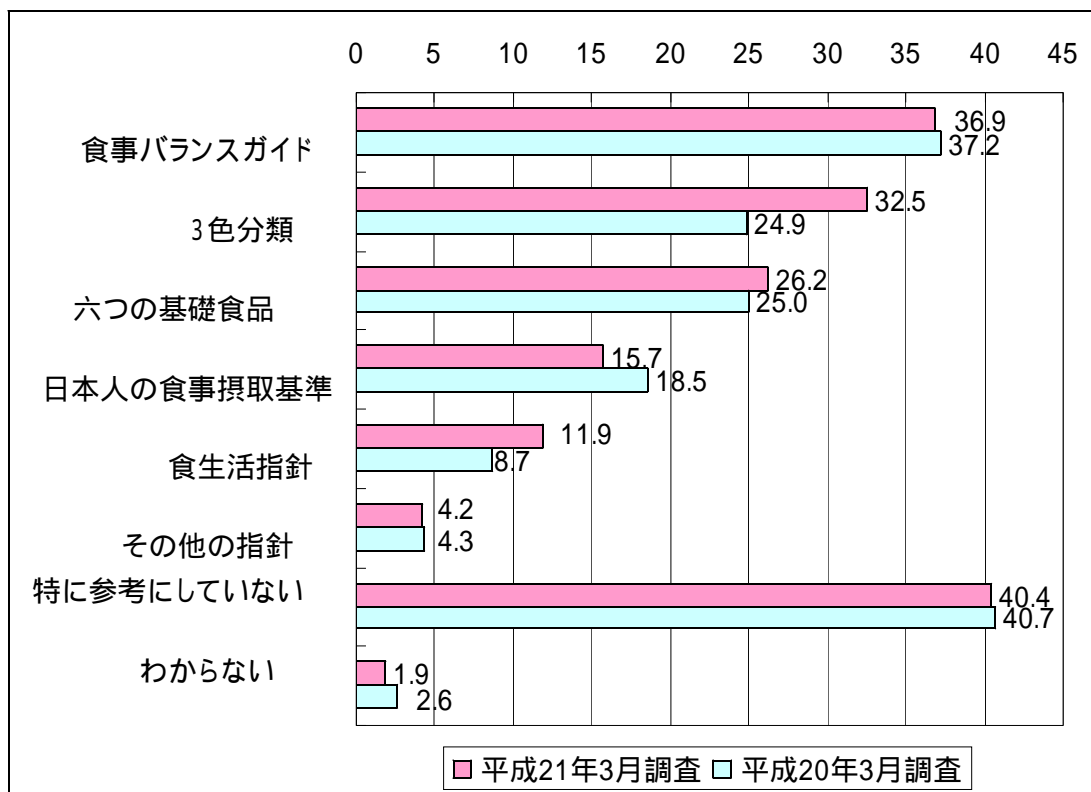
(参考) 食育推進基本計画 目標値(平成22年度)
食育に関心を持っている国民の割合 90%以上

(3) 「食事バランスガイド」等を参考にした食生活の実践度

「食事バランスガイド」等を参考にしている人の割合は、前回調査とほぼ同じ。

[本文 P 8]

(%)

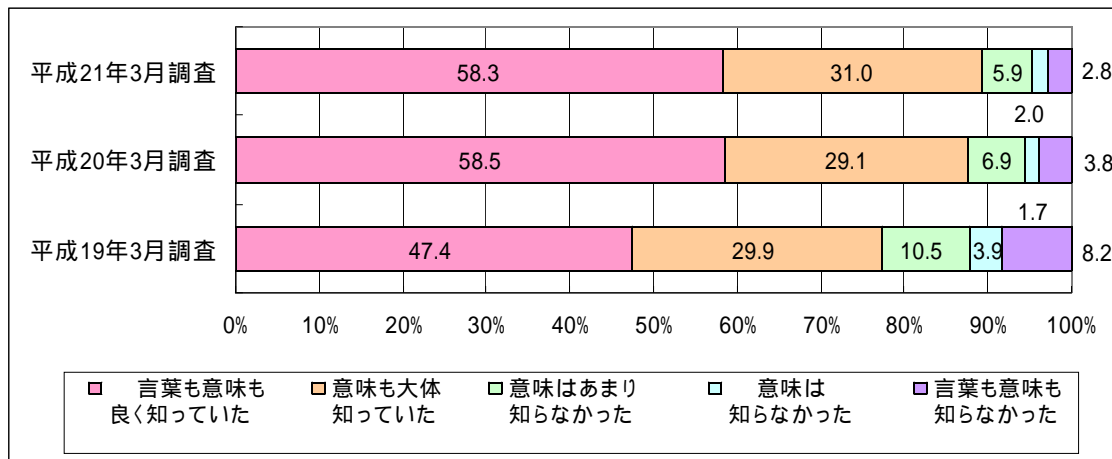


(参考) 食育推進基本計画 目標値(平成22年度)
「食育バランスガイド」等を参考に食生活を送っている国民の割合 60%以上

(4) メタボリックシンドロームの認知度

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の「意味まで知っていた」人の割合は8割を超え、前回調査とほぼ同じ。

[本文 P 10]

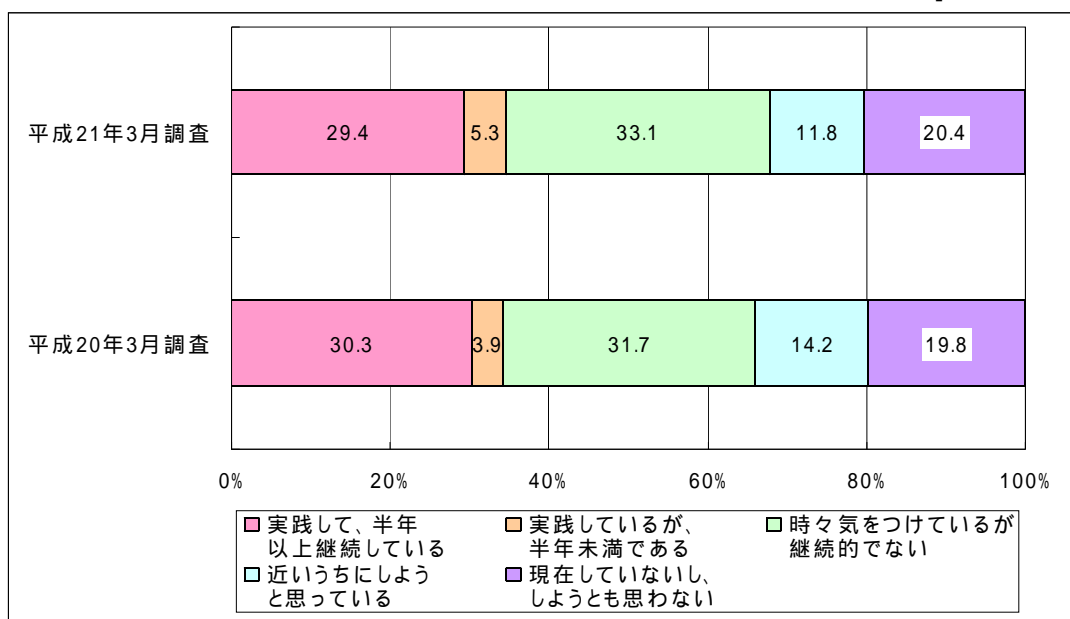


(参考) 食育推進基本計画 目標値(平成22年度)
メタボリックシンドロームを認知している国民の割合 80%以上

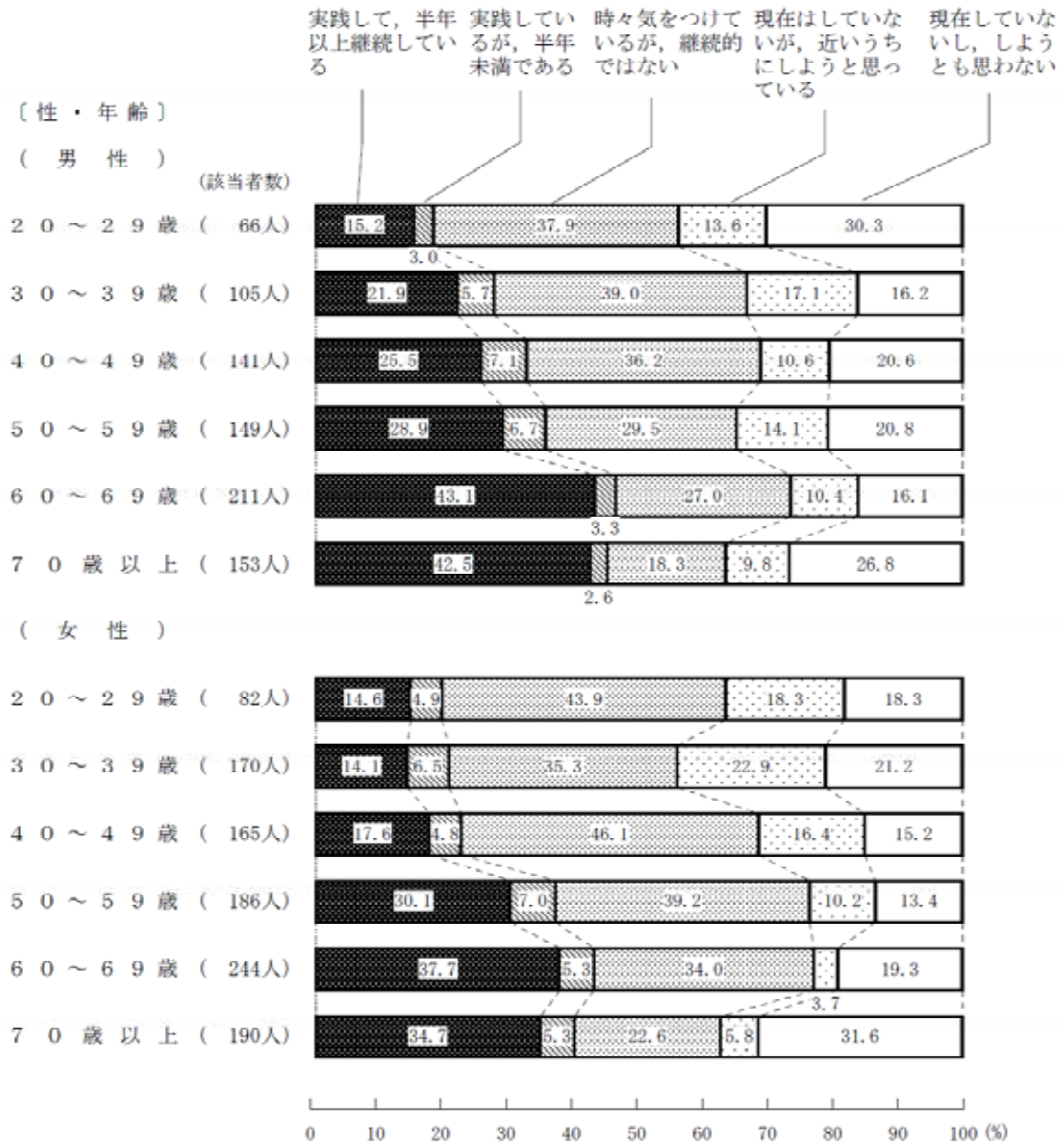
(5) メタボリックシンドロームの予防や改善のための食事・運動の実践度

メタボリックシンドロームの予防や改善のために食事・運動を「継続的に(半年以上)実践している人」の割合は3人に1人で前回調査とほぼ同じ。性・年齢別にみると、男性の60代、70歳以上と、女性の60代で高い。

[本文 P 12]



<性・年齢別 メタボリックシンドロームの予防や改善のための食事・運動の実践度>



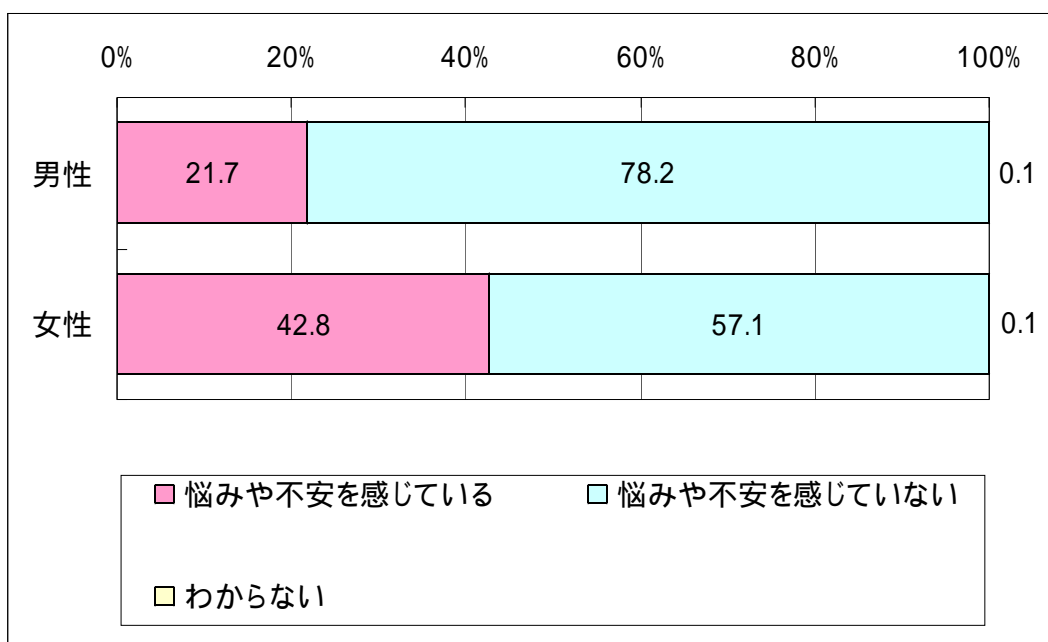
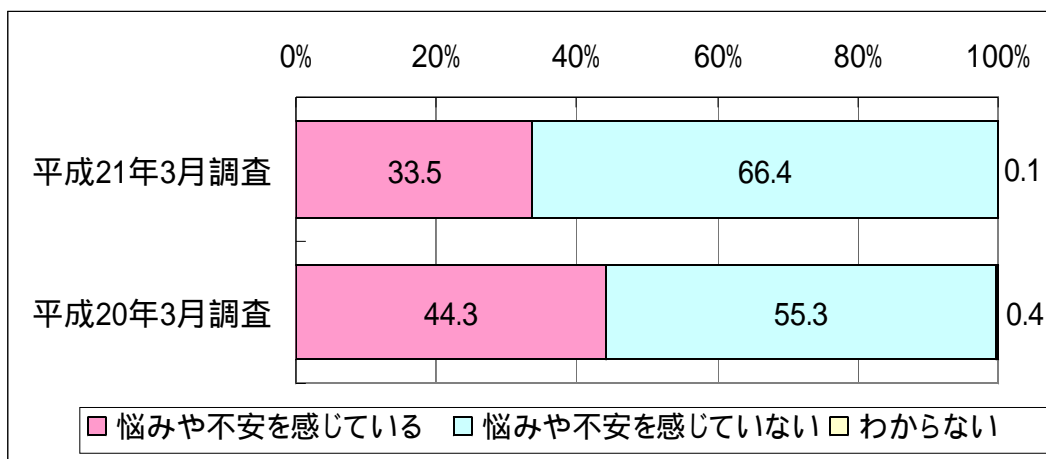
2 日頃の食生活について

(1) 食生活での悩みや不安

ア 日頃の食生活での悩みや不安の有無

食生活に悩みや不安を感じている人は3割程度で、前回調査から10.8ポイント低下。性別にみると、男性では5人に1人、女性では5人に2人が悩みや不安を感じている。

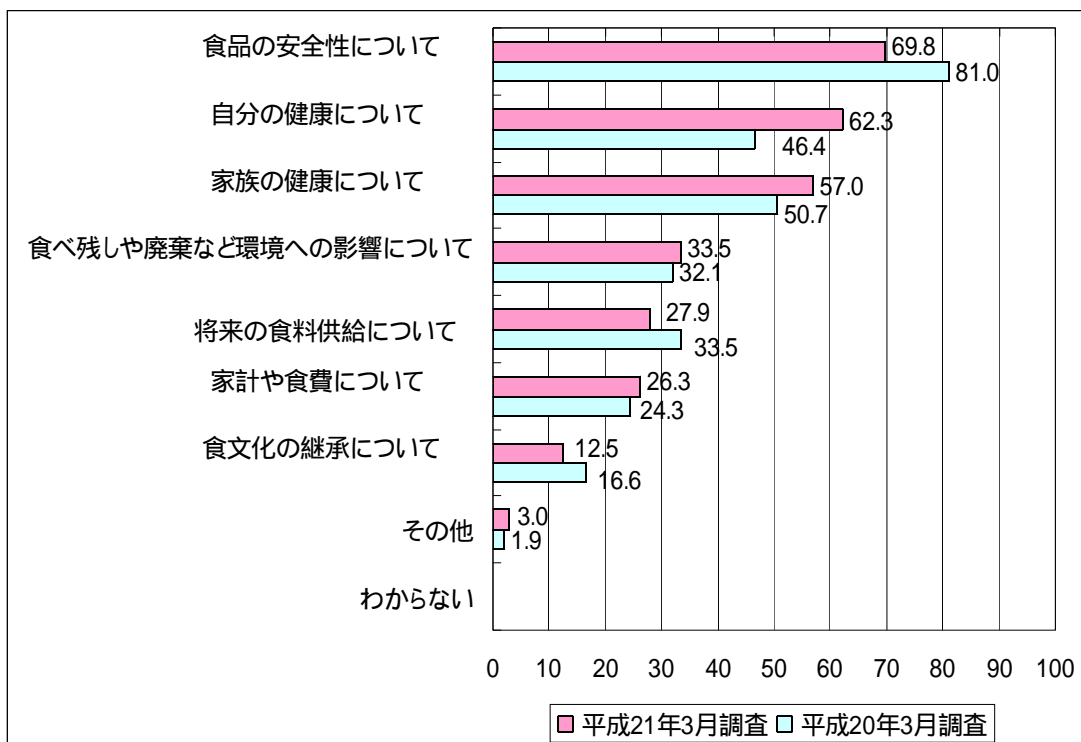
[本文 P 14]



イ 悩みや不安の内容

悩みや不安の内容は、「食品の安全性について（69.8%）」、「自分の健康について（62.3%）」、「家族の健康について（57.0%）」の順で、前回調査から2位（「家族の健康について」）、3位（「自分の健康について」）が入れ替わった。

[本文 P 16]

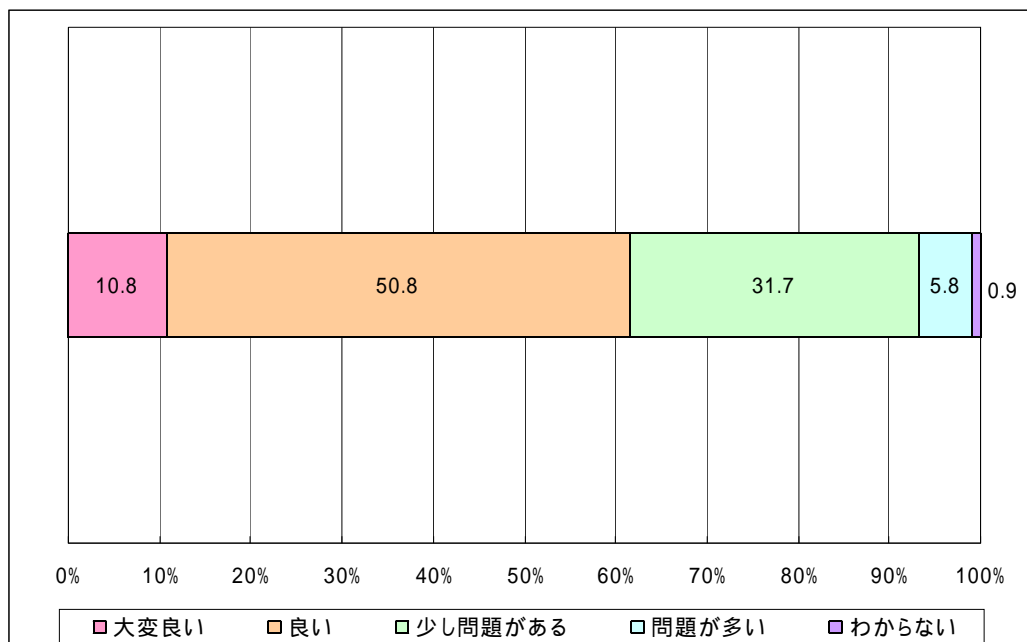


(%)
(複数回答)

(2) 現在の食生活の評価

「良い」(「大変良い」と「良い」の合計)とする人の割合が6割程度で、「問題がある」(「少し問題がある」と「問題が多い」の合計)とする人の割合が4割弱。

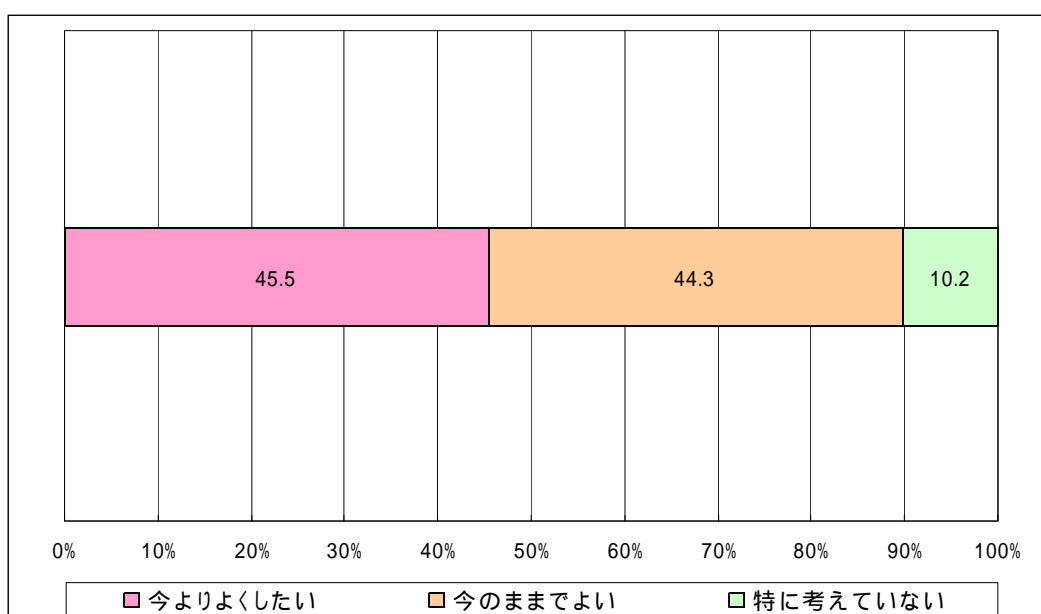
[本文 P 18]



(3) 今後の食生活の改善意向

「今よりよくしたい」人と「今のままでよい」人がほぼ同数で、それぞれ4割5分程度。

[本文 P 20]

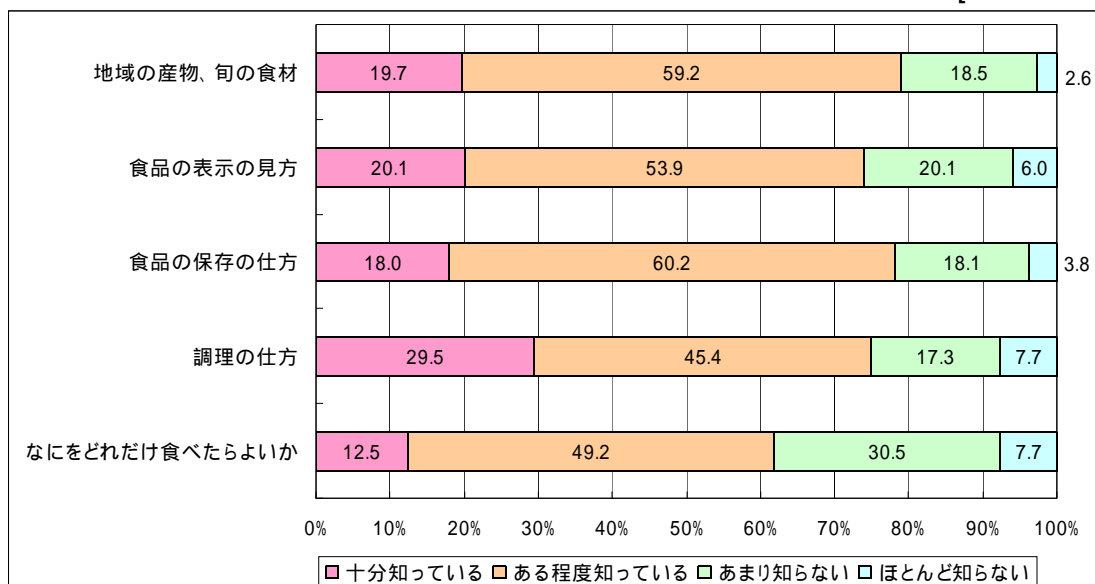


3 食に対する知識や食習慣等について

(1) 食に関する知識

「地域の産物、旬の食材」、「食品の表示の見方」、「食品の保存の仕方」、「調理の仕方」、「なにをどれだけ食べたらよいか」のいずれの項目についても、ある程度知っている人の割合が最も高い。

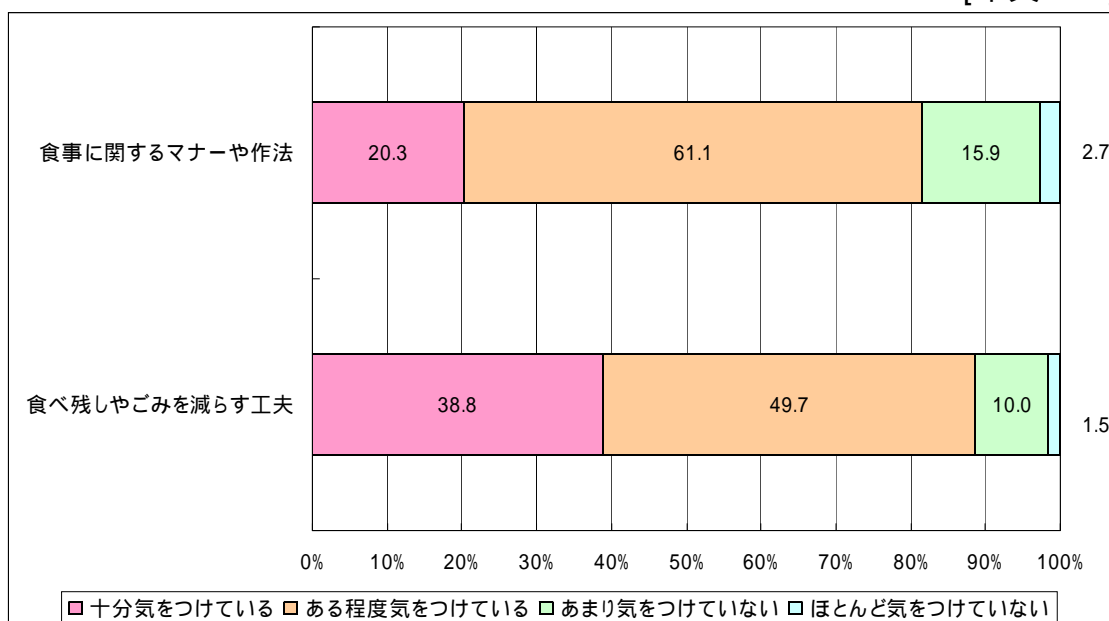
[本文 P 22]



(2) 食に関する注意の程度

「食事に関するマナーや作法」については、「気をつけている」人の割合が8割。「食べ残しやごみを減らす工夫」については、「気をつけている」人の割合が9割。

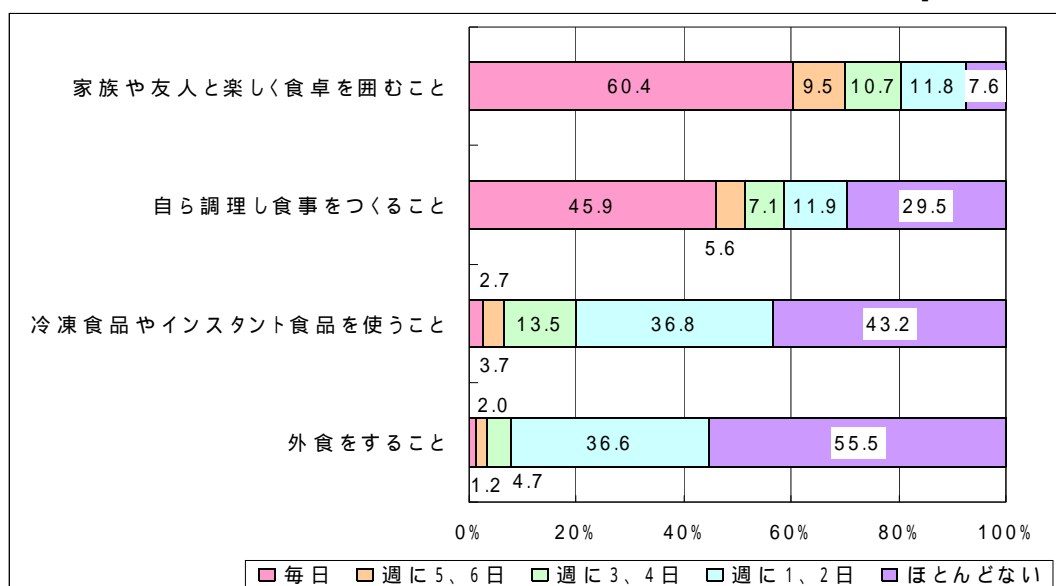
[本文 P 29]



(3) 食に関する機会の程度

「家族や友人と楽しく食卓を囲むこと」が「毎日」行われる人の割合は6割、「自ら調理し食事をつくること」が「毎日」行われる人の割合が4割5分、「冷凍食品やインスタント食品を使うこと」が「週に1、2日」の人の割合が3割5分、「外食をすること」が「週に1、2日」の人の割合が3割5分。

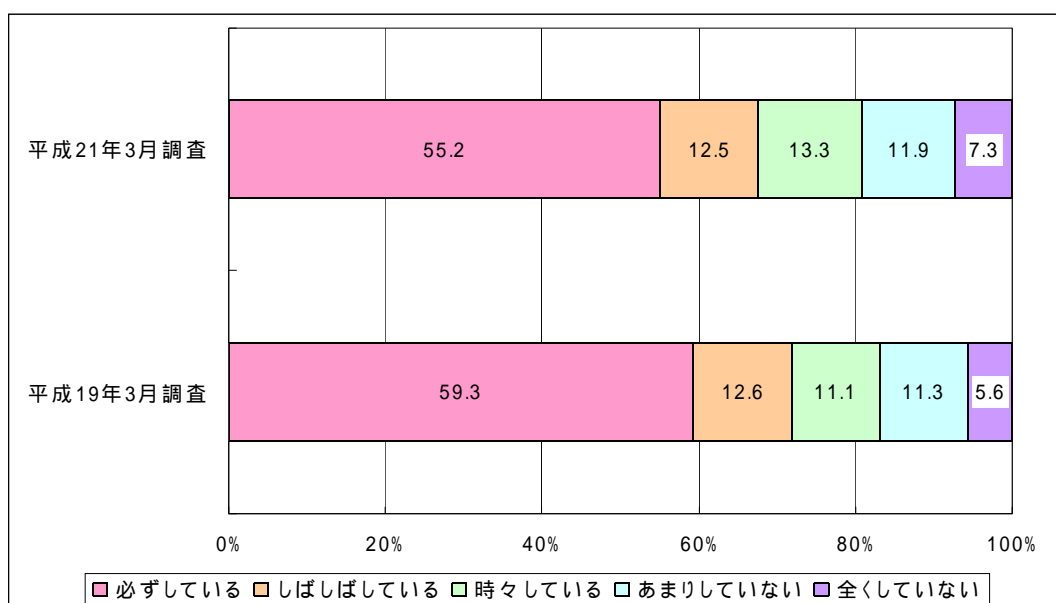
[本文 P 32]



(4) 食事の挨拶の実践頻度

「いただきます」、「ごちそうさま」の挨拶をしている人の割合は8割程度で、前回調査とほぼ同じ。

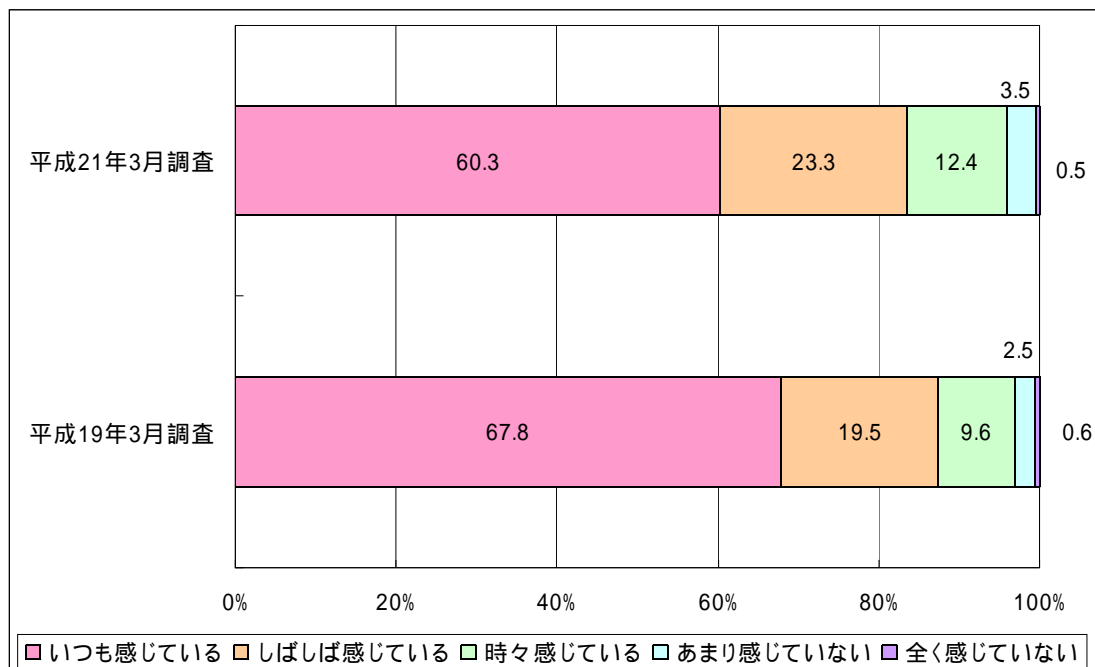
[本文 P 37]



(5) 食べ残しや食品の廃棄に対する意識

食べ残しや食品の廃棄に対して、日頃から「もったいない」と「感じている」人の割合が9割5分。前回調査とほぼ同じ。

[本文 P 39]

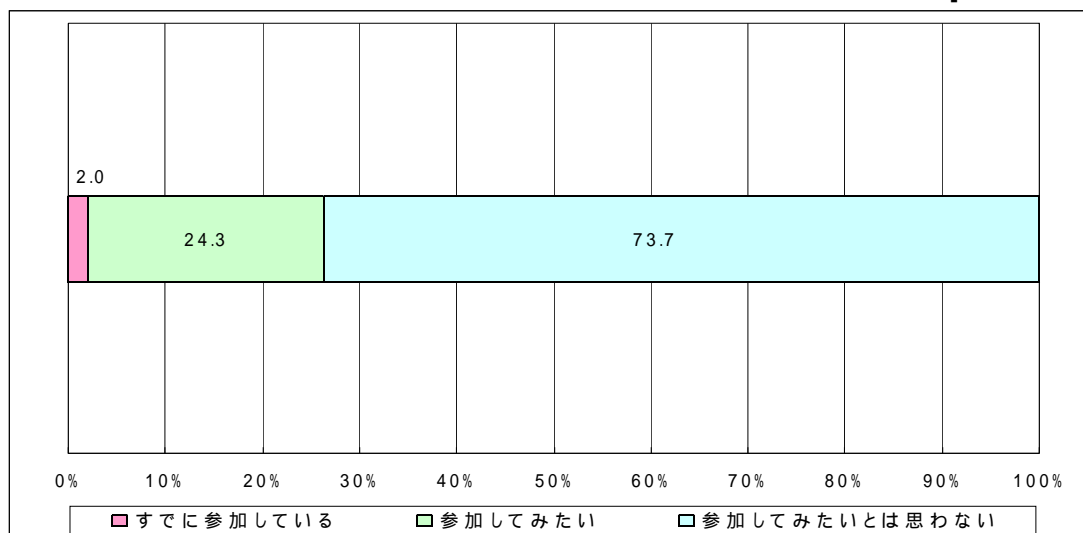


4 食育推進ボランティアについて

(1) 食育推進ボランティアへの参加意向

食育の推進に関わるボランティア活動に「参加してみたい」人が2割5分程度、「参加してみたいと思わない」人が7割5分程度。

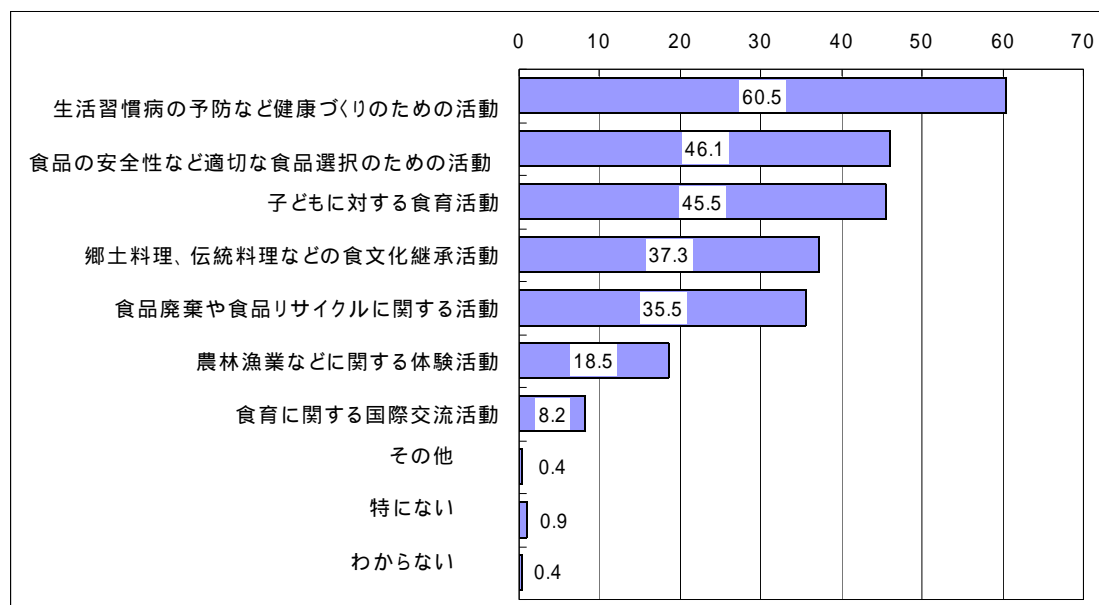
[本文 P 41]



(2) 参加してみたいボランティア活動

参加してみたいボランティア活動として、「生活習慣病の予防など健康づくりのための活動 (60.5%)」「食品の安全性など適切な食品選択のための活動 (46.1%)」「子どもに対する食育活動 (45.5%)」等の順。

[本文 P 43]



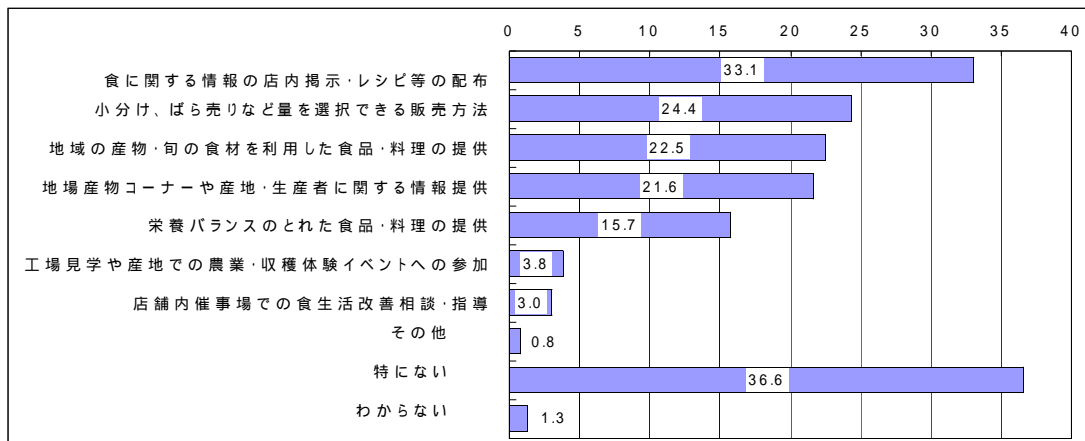
(%)
(複数回答)

5 食に関する情報等について

(1) 利用している情報等

スーパーマーケット・食料品店や飲食店等の取組や情報で利用しているものとして、「食に関する情報の店内掲示・レシピ等の配布(33.1%)」、「小分け、ばら売りなど量を選択できる販売方法(24.4%)」、「地域の産物・旬の食材を利用した食品・料理の提供(22.5%)」等の順。

[本文 P 45]



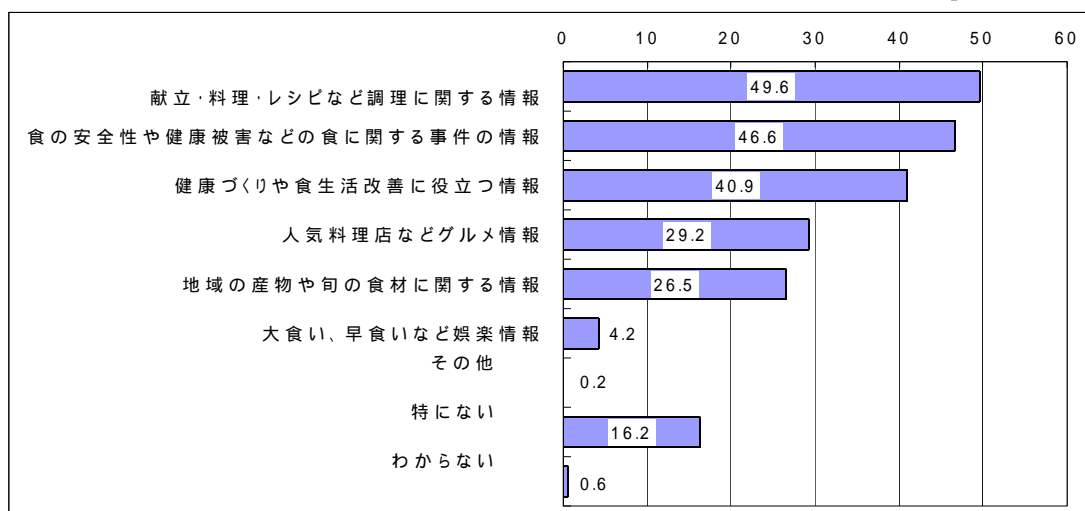
(%)

(複数回答)

(2) 参考にしている情報等

普段の食生活に役立てたり、参考にしているものとして、「献立・料理・レシピなど調理に関する情報(49.6%)」、「食の安全性や健康被害などの食に関する事件の情報(46.6%)」、「健康づくりや食生活改善に役立つ情報(40.9%)」等の順。

[本文 P 47]



(%)

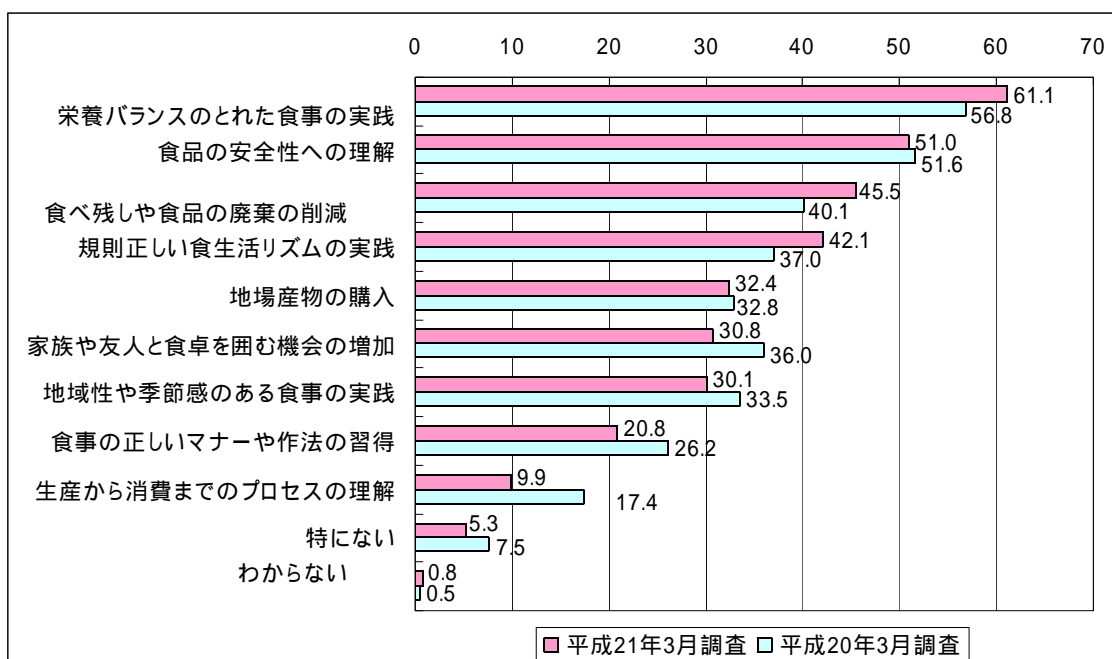
(複数回答)

(3) 今後の食生活で特に力を入れたいこと

今後の食生活で特に力を入れたいこととしては、「栄養のバランスのとれた食事の実践 (61.1%)」、「食品の安全性への理解 (51.0%)」、「食べ残しや食品の廃棄の削減 (45.5%)」等の順。

上記の項目については、前回調査と比べて、「栄養のバランスのとれた食事の実践」、「食べ残しや食品の廃棄の削減」の割合が上昇。

[本文 P 49]



(%)
(複数回答)